

長田下地域 振興会だより 第16号

2013年(平成25年)3月28日発行

敬老会

10月27日(土)、向原小学校の体育館でありました。下長田地域は、他の地域に比べ参加される人が大変多く、バスも2台用意されました。(他の地域は1台です。)

皆さん、敬老会を楽しみにされているようです。バス2台に乗って、会場に着いて、まずびっくりしたのは、たくさんの中学生や高校生が、手伝いに来ていたことです。どの子もいい顔で、参加された人の世話をしていました。挨拶の後、「向原こぼと園のかわいい太鼓」「向原中学生の丸山太鼓」、最後に「神楽」がありました。「こぼと園の太鼓は小さいのに上手にようやっちゃったよのう。」「中学生のは、音が大きくて、迫力があつたよのう。」また「今日の神楽はよかったで。言葉がはっきりしていてよわかつたよのう。」などの声が聞かれ、皆さんとても楽しんでいました。

帰りのバスでも、皆さん、和やかな雰囲気でした。来年もまた行きましょう。

(担当：火上保雄)



12月2日(日)午後、安芸高田市消防署及び市消防団第3分団の方々の指導・協力の下、3回目となる防災訓練が中長田集会所で実施されました。

天候が良くない中、全員到着までに多少時間を要しましたが、多くの方が参加されました。消火器とAED(自動体外式除細動器)の説明があり、AEDは大人と乳幼児では対応が少し異なるなど改めて学びました。

消防署の方が質問にも丁寧に答えてくださり、大変役立つ内容でした。

下長田地域AED設置場所・・・中長田集会所／ひとは作業所【電話 46-2960】

(担当：児玉尊子)



12/1 人間ホール

～人間ホール、今回も盛大に～

ひとは福祉会と地域の協働による人間ホールが今回も盛大に行われました。

実行委員会には、長田下地域自治振興会と共に、向原小、向原中、向原高校をはじめ、個人の有志も参加して組織されます。今年はテーマを「ひびきあう」とし、参加者一同が人間として共感しあえる空間をつくっていきました。

私たち振興会は例年のごとく飲食を担当しましたが、例年の焼きそばに加え、フランクフルトなどのブースも担当し、盛り上げに一役も二役も買いました。また、ひとはを利用する人たちの家族と一緒に飲食を担当したおかげで、地域の一員としての親しみもグンと身近になってきました。

飲食ブースは戸外の為、ホールの中の熱気を感じることが出来ないのは残念ですが、昼時の顔、顔は輝いていました。

『ただの人 老若男女 集い来て 見知らぬ人と 笑顔をかかわす』

でもやっぱり人間ホールの時期は寒いですね。応援に駆けつけてくださった方々、ありがとうございました。



(担当：寺尾文尚)

2/16 第3回

ふれあいの集い

中長田集会所で第3回ふれあいの集いがありました。

当日は、35名(女27、男8)が集い、まずは恒例の血圧測定からはじまり、振興会笹岡会長より挨拶、ふれあい部中川部長の説明後、皆で「輪投げ」ゲームをしました。

景品が展示してあり、それを目標に必死で高得点を目指して投げました。その後は、役員の方々の手作りぜんざいをいただき、和気あいあいのうちに、今回もまた元気でこの会を終了しました。寒い中でも、多くの参加による集いできたことで、皆様の健康に感謝です。



(担当：金岡俊信)

「下長田地区の文化財保護と伝承」について考える⑦

今回は、下長田地域で行われている「とんど」について考えてみました。

下長田では、昔から正月15日を中心に、前日、大人が竹やぶで切り倒した真竹や孟宗竹を子どもたちが仲間と協力して、河原や田の中に運びました。

次の日、大人が所定の場所の中央に、大竹を三脚のように立て、その周りを何十本もの竹を立てかけ、三角帽子のような形にして、切り出した太いかずら（蔓）でぐるぐると巻きます。その筐の中に、持ってきた門松やしめ縄、神様のお札などを差し込みます。そして、わら束を所々に差しこみ、点火の準備をします。

夕方、薄暗くなった頃、代表者（年男・年女がいればその人）が、根元のわらに点火して回り、全体がめらめらと燃え上がり、大きな火柱となって天をこがします。そのチャンスを見計らって、子どもたちは細竹の先につけた書き初めを燃えさかる炎にかざします。天高く昇っていくほど、習字が上手になると言われてきました。

その後、爆竹音がパァーン、パァーンと轟き、火は崩れ落ちます。しばらく燃えた後、火が小さくなり炭火（おき）になると、集まった住民は持って来た2～3メートルの竹竿につけた鏡餅や小餅を、てんでに火にかざして焼きます。体も温め、健康を祈願します。竹の油のしみ込んだ甘い味の焼き餅をほおぼり、真竹を上手に切って、酒燗をつくり、竹のコップで回し飲みをしたりします。地域によっては、ぜんざいを作ったり、お酒のつまみを用意したりする所もあります。

焼き餅の残りは、家に持ち帰り、ぜんざいやおかゆなどにして、家族みんなで食べ、無病息災を祈ります。餅焼きの竹竿を家に立てかけておくと、火事にならないという言い伝えもありました。

とんどは、「左義長」という字で表しますが、「三毬杖(さぎっちょう)」という字で書かれた書物もあり、平安時代から、宮中で正月15日に、子どもの遊具の毬を打つ杖（木でできた槌。現代のグランドゴルフのクラブみたいなもの）を3本組み合わせて立て、その周りに燃えやすい木などを立てかけ、古い文書や短冊、門松やしめ縄などを焼く火祭りの行事が、その起こりだとも言われています。

とんどは、昔から地域住民の憩いの場であり、無病息災を祈る場であり、子どもたちの絆を深める場でもありました。下長田の各小地域ではいろいろ考え、とんど行事を残そうとされています。実施日も、正月15日に限らず、地域で話し合って日時を決め、昼間に実施するなど工夫もされています。

少子高齢化の進む中で、今後はこの貴重な行事を維持することが難しくなることも考えられます。

(担当：谷林文男、松田 清)



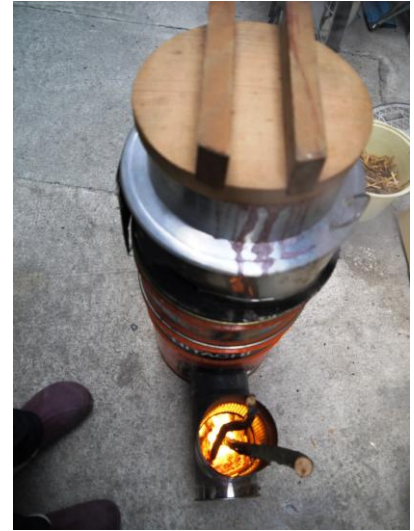
作ってみませんか、エコストーブ

このストーブは、手作りです。テレビでも紹介されています。私もテレビで、この「ストーブを作る会」があると知り、先日総領町まで作りに行ってきました。

材料は「油缶(ペール缶) 2つ、ステンレス煙突の短く切った物、園芸用の土」の3つを用意します。

担当の人が、やり方を教えてくれたり、難しい所は手伝ってくれたりして、2時間ちょっとで完成しました。この作る会には、「災害時の炊き出しに使えるのではないかと」防災係の人も来ていました。

家に帰り、さっそく使ってみました。火力が強く、ご飯が美味しく炊けました。今は電気釜をやめて、このストーブですずっとご飯を炊いています。細かい薪を燃やすのですが、普通の釜に比べて少しの薪ですみます。



とにかくよく燃えます。どういう仕組みなのか分かりませんが、火がつくと、焚き口から吸い込まれるように勢いよく燃えます。煙もほとんど出ませんが、家の中ではちょっと無理かもしれません。締め切った土間みたいな所でも、けむたくありません。

作り方の説明書も、もらってきました。が、私一人で作るのは無理です。何人か集まればできると思います。一緒にやってみませんか？

(担当 火上保雄)

編集後記

広報委員6人で記事を持ち寄り、編集し、予定していた14~16号を発行することが出来ました。困ったのは、内容が以前掲載した行事やイベントと同じものになってしまうことです。

いろいろな趣味を持っている人や、〇〇を作る名人などを紹介したらどうかという意見もあり、来年度はそのコーナーを作ることにしています。皆様のご協力をお願いします。

皆様、1年間ありがとうございました。

(担当 火上保雄)